甲状腺外科草子 101

独断のお気に入り映画１

杉野　圭三

世には「**名作映画**」なるものがあふれ、自称映画評論家たちが「名画ベスト―」などを選んでいる。それらは「**個人的に好きな映画**」とは全く異なる物が多い。独断で何回でも見たくなる“**楽しいお気に入り映画**“を選んだ。

大いなる西部（1958，W・Wyler 監督）

個人的に最も好きな映画。大監督 W・ワイラーが作った２本の西部劇の一つ。主演の**グレゴリー・ペック**、**ジーン・シモンズ**、**チャールトン・ヘストン**など多数の名優が出演し、音楽も有名である。

C・ヘストン　　C・コナーズ

対立する牧場主ヘネシー役の**バール・アイヴス**（歌手）は迫力ある名演でアカデミー助演男優賞を受賞。また、その息子バックを正義の味方ライフルマンで有名となったチャック・コナーズが情けない悪役で演じた。

迫力のＢ・アイヴズ　　早朝の“挨拶（決闘）”

西部劇でありながら、主演の G・ペックは劇中一度も人を撃たないが、男と男の勇気ある熱い戦いが繰り広げられる。

人を撃たない決闘　　名ゼリフ“昔は俺も一人だった”

ジーン・シモンズ　　目と目が物語るラスト

この男たちの戦いに花を添えたのが、**ジーン・シモンズ**である。あの透きとおった青い瞳で見つめられたら東部の男も西部に身を埋めようと思うに違いない。

マイフェアレディ（1964，G・Cukor 監督）

この映画を初めて見たのは高校１年生ごろ、神戸三宮の阪急文化会館であった。

お宝のパンフレット(1969?)

咲き誇る花のオープニングから引き込まれ、英語の発音には上流階級、下町などで様々な特色（なまり）があることを知った。

名脇役たち

レックス・ハリスン演じる独身主義の中年紳士と下町の花売り娘**オードリー・ヘップバーン**の取り合わせは最高で、８部門でアカデミー賞を受賞したのも納得の名作である。

舞台で主演したジュリー・アンドリュースへの同情や歌の吹替問題でオードリーが受賞を逃したことは残念だが、この映画を見れば、輝くオードリーの魅力の虜になること間違いなし！審査に異議あり！

Where the devil are my slippers, Eliza?

昔はラストシーンの“**僕のスリッパはどこ？**”が意味不明だったが、年と共に理解できるようになってきた。若者には無理かな？

（　**一甲状腺外科医の徒然なる随想**　）

2024 年 5 月 17 日